

# 令和6年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

## 学校の概要

十三小	学校	児童数	23
-----	----	-----	----

### 平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	14.73	18.64	33.79	36.43	37.80	9.78	134.53	18.80	49.57
大阪市	15.78	19.09	32.72	38.56	45.05	9.52	147.96	20.45	51.13
全国	16.01	19.19	33.79	40.66	46.90	9.50	150.42	20.75	52.53
女子	14.13	15.88	35.50	34.50	33.25	10.09	129.50	11.88	48.25
大阪市	15.64	18.06	37.62	36.76	34.65	9.83	139.56	12.71	52.47
全国	15.77	18.16	38.19	38.70	36.59	9.77	143.13	13.15	53.92

### 結果の概要

本校男子児童は体力合計点が全国平均・大阪市平均にわずかに届かなかった。その差は2～3Pであることから、少しの努力や個人の頑張り、それぞれの平均に届くと考えられる。より平均に近い項目としては、「上体起こし」「長座体前屈」があげられ柔軟性はついてきていることがわかる。一方で「20mシャトルラン」「立ち幅跳び」については平均との開きも大きく、持久力や跳躍力に大きな課題があることがわかる。

女子についても同様に、体力合計点が全国平均・大阪市平均に届かず、その差は4～5Pと、男子のそれより大きかった。母数が8人ということもあり、運動が苦手な児童の結果が大きく影響しているともいえる。どの種目も全国・大阪市の平均との差は大きく、どの運動能力についても課題となっている。特に「立ち幅跳び」については開きが大きく、男子同様跳躍力が大きな課題である。

質問項目「運動やスポーツをすることは好きですか。」の肯定的回答については、男子は100%と全国・大阪市平均より高く、女子は30Pも低い。1週間の総合運動時間が60分未満の児童の割合は、男子で0%、女子で50.3%という実態も併せて、運動への興味関心が体力・運動能力に大きく影響していることがわかる。

### これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

今年度も本校独自の指標として、学校アンケート「運動やスポーツをすることは好きですか」に対しての肯定的回答85%を目指し、体育カードの活用、積極的な出前授業の活用、かけ足週間や縄跳び週間の実施に取り組んだ。それぞれに取り組んだこともあり、指標を達成することができ、来年度の体力調査でも一定の効果は期待できる。一方で今年度の体力調査の結果、児童の様子を振り返ると、持久力、跳躍力、また、運動、スポーツが嫌いな児童に対するアプローチが課題として見えてきた。具体的方策として、縄跳び、もしくは大縄跳びの学校全体の取り組みを引き続き実施する。跳躍力はもちろん、学校全体で取り組み、「できた」「とべた」感覚を児童全員がもつことで、運動に苦手意識のある児童にも効果があると考え。外部講師による出前授業を活用することを、全学年で計画的に実施する必要がある。